

【はじめに】

皆さま、広報部です。2015年も「JOHOKU SHINDAN 誌」をよろしくお願ひいたします。さて、本年度第1号は、若手診断士チームが商店街を活性化していこうと奮闘している「東十条銀座商店街支援チーム」の特集です。IT やゆるキャラを活用しながら商店街の力を結集させる支援を行っています。今回は、その概要をお伝えします。

【～若手診断士たちの商店街支援～】

東十条銀座商店街支援チーム

「北区にぎわい再生プロジェクト」の一環として、若手の診断士がチームで取り組んでいます。このプロジェクトは2013年に朝倉先生の声かけではじまり、11名の診断士が参加しています。現在は、2～3人の診断士が商店街理事会に参加し、商店街側と打ち合わせをしています。「事務所の整備と活用」「補助金とりまとめ」「キャラクターのブランド化（新商品・サービスの開発を含む）」「Web サイト更改」「Facebook ページの作成と運用」等、幅広い支援を提供中。当プロジェクトのリーダー、黒川 敦先生（2013年登録）にお話しを聞きました。

Q 支援を開始した当時はどんな商店街でした？

区プロジェクトに当該商店街が選ばれていることすら周知されていない状況で、商店街の役員までは多少認知しているが、加盟店にはまったくでした。そのため、プロジェクトと診断士の見える化が重要と感じ、2014年3月に実施した交通量調査では商店街のハッピーを借りて実施したほか、商店街理事会や総会への積極的に参加しました。また、商店街を1つにする象徴として、マスコットキャラクター“ラブちゃん”を活用することを柱としました。



下町情緒にあふれ、個性豊かな店舗が多い

交通量調査の実施風景

Q 支援をして現在どのような変化が？

商店街内で活動が認知されてきたことを感じます。例えば、ラブちゃんに関連グッズとして「おすすめシール」を作って加盟店に配布したのですが、多くの店舗で自らの逸品の紹介に使っていただいています。また理事会では役員からアイデアが出てくるようになりました。補助金を獲得し、「事務所の整備」や「ラブちゃんの着ぐるみ製作、イベント開催」を実際に行ったことも大きいと思います。



Q この商店街では特に IT を活用した集客を推進しているそうですが？

交通量調査と同時に来街者アンケートの分析結果から、平日・休日とも 30 代～50 代の購買力のある年代が来街者のメインになっていて、こうした層の多くは通り過ぎるだけで買い物をしないという人。ここへのアプローチを強化すれば、商店街は売り上げの成長余地が多分にあるという仮説から、Facebook 広告のターゲットとする試みをしました。この取組みは、ネットの記事でも取り上げられました。

* 日経ビジネスオンライン 「実践！ 下町商店街の活性化に「狭告」を活用」

<http://business.nikkeibp.co.jp/article/opinion/20141028/273114/>

もう 1 つの目玉が 10 年前に作ったマスコットキャラクター・ラブちゃんのリニューアル。

2014 年 12 月 7 日と 21 日の歳末イベント「ラブちゃんと歩こう」「握手会」にて着ぐるみデビューしました。

Q 着ぐるみ作成に至る過程で苦労したこと、頭を悩ましたことなどエピソードありますか？

着ぐるみは数十万する高価なもので、3/4 の助成金が出るとはいえ商店街に多大な資金負担をお願いすることにもなります。製作するメリットを伝えつつ、着ぐるみのデザイン（目は丸 or ウィンクにする）のアンケートを全店舗に実施するなどを行い、ラブちゃん自体に親しみを持ってもらおうよう心がけました。



ラブちゃん製作過程



微妙な色味までこだわる



12/7 デビューを祝う商店街理事の皆様と支援メンバー



Q 動きはどんなものが？どのように考えました？

YouTube や他の商店街のサイトを参考に研究しました。大きなふりをした方がかわいいとか、歩く時は大股だと怖いとか。あと肉球はポイントです（笑）メンバーが事前に事務所に集まって練習をして、動画や写真を取りあつて意見を出し合いました。歳末のイベントでは交代で 6 名の診断士が入りました。



ボルトのポーズ



かわいポーズ



来街者とのふれあい（中は診断士）



Q 「中の人」も診断士。入った人の感想は？。

製作は小峰玩具製作所様をお願いしたのですが、非常に軽い素材で作っていただき重さはあまり感じません。ただし暑いです（笑）頭にファンをつけたり、体には保冷剤つけるなど工夫しましたが冬でも汗だくになります。夏のイベントをどうするかが悩みどころです。

Q 今後の予定を教えてください

2月15日(日)に、「店主のこだわり講座」を予定しています。商店街の初の試みのため2店舗(寿司屋、酒屋)の合同開催で、「寿司と酒の世界」というテーマで開催します。23区内唯一の酒蔵の話や、まぐろの部位と、味の違い等を店主の長年の経験と裏話を含めて語っていただきます。現在、内容は確定し、チラシを製作して集客を開始し始めたところです。ポスティング業者の活用も検討しています。店主が積極的に関与して開催する講座となっていますので、成功できるようにメンバーでサポートしたいと思います。

東十条商店街支援に関するご質問については、連絡先：黒川 敦 (blariver1014@yahoo.co.jp) まで。

【支部活動潜入レポート】城北支部 新年賀詞交歓会 (1月17日 サンパール荒川にて)

城北支部の賀詞交歓会が行われ、100名程の会員が参加しました。構成は2部構成です。1部は朝倉支部長のキーワードに沿った年頭の挨拶。①顔の見える支部、②OPENな情報開示、③実力派プロコンの要請、④ベテラン・中堅・若手の連携、⑤企業内診断士の活躍、⑥女性会員の活躍、⑦外部機関との連携、という7つのキーワード。それぞれのワードごとに現在動いている具体的な取組みも交えた内容。スペースの関係で、1つ1つを詳細にレポートできませんが、後日それぞれの詳細を本誌の特集などでご紹介しようと思います。というわけで、広報部にとっては新年早々ネタの手がかりが7つも見付き、幸先の良いスタートとなりました。続いて、会員交流イベント「ザ・再ブレイク」。過去のヒット商品に何かアイデアをプラスして新たな商品として再ブレイクさせる方法を考えるゲーム。4~5人のチームとなり、全15チームでアイデアを競います。各会員が自分のチーム以外で最も優れていると思うアイデアに投票し、得票数が多いチームが優勝となります。このゲーム、ランダムにチーム分けをされているため、診断士キャリアも専門分野も違う会員同士がチームになります。初対面同士のメンバーが集ったチームも多い中、最初2分ほどの自己紹介を行うのみでしたが、各チーム、議論が活発に行われる様子は診断士の集まりならではのキーワードで出た「オープン」「連携」といった雰囲気を感じられるひと時でした。企画内容も診断士が悩み・楽しめるもので、「たまごっち+アイドル=リアルアイドル育成」といったユニークなアイデアが多く出されました。



支部長より2015年の抱負



チームごとに活発なディスカッション



各チームから最も若い診断士が発表



そして、第2部は、「京に舞妓はん、浅草は振袖さん」をキャッチフレーズに誕生した振袖さん。白塗りに日本髪、華やかな振袖姿。優雅な踊りを披露。城北地区ならではの華やかな宴会となり、一緒に写真を撮る殿方が大勢おりました。



松原 秀樹先生 【連絡先】 green_matsubara@ybb.ne.jp



【職歴・得意分野】

食品メーカーで生産管理や技術開発、環境管理、原料購買、技術系社員研修などを経験。得意分野は製造業の5Sや在庫管理、省エネルギー、購買改革、商店街活性化など。

【支部活動】

2008年2月～2010年3月：国際部員

2008年4月～2012年3月：企業内診断士フォーラム幹事

2009年4月～2014年3月：総務部副部長、2014年4月～：能力開発推進部副部長

松原先生は「なぜ気がつく知らないうちに1日が終わってしまうのか（労働調査会）」という本を出版されています。本年度第1弾は、松原先生に、今日からできる出版への道のを聞いてみました。



Q 本を書くことになった経緯は？本業の内容と関係ある？

以前に私が受講した「夢をカナエル」プロコン養成マスターコースを主催されており、城北支部会員でもある福島 正人先生より、修了生を対象にお声掛けいただきました。本業と直接は関係ありませんが、私はこれまでタイムマネジメントを心掛けており、それによって生み出した時間で診断士の受験勉強や、診断士活動をしてきました。

Q この本の読みどころは？

自分の人生における優先順位を決め、優先順位の高いことをするための時間を確保するための、職場とプライベートにおける様々なタイムマネジメント術を、具体的に分かり易く解説しています。自分が死ぬ時に後悔しないために、是非読んでいただきたい1冊です。

Q 出版までにどんな工程を踏むのでしょうか？

まずは企画の意図や各章の内容をまとめた企画書を出版社に提出します。その後出版社で打合せ、企画書の掘り下げや章別の提出期限を確認しました。1章を提出した後も書き方のアドバイスや2章以降の進め方を改めて打ち合わせました。その後は期限通りに提出をしていくほか、出版社からの修正・加筆依頼に基づいて修正します。

Q 苦勞したことは？

なかなかページ数が稼げず、苦勞しました。今回のテーマは私がこれまで長い人生にわたって心掛けてきたことで、ネタには困らないはずだったのですが、全200ページ書くべきところ、その10分の1程度で筆が止まってしまいました。その後は出版社の方のアドバイスも受け、事例を足したり表現方法を変えたりと、肉付けしていきました。

目次
第1章 なぜ気がつく知らないうちに1日が終わっているのか？ (自分が死ぬ時に後悔しないように人生の優先順位を決め、それを徹底する ほか)
第2章 職場ですぐに使える!タイムマネジメント術 (優先順位に基づいた、メリハリのある1日を過ごすメール・電話を効率的にする ほか)
第3章 プライベートですぐに使える!タイムマネジメント術 (休日にこそ、タイムマネジメントは必要だ!平日の退社後の時間を有効に活用し、能率的な明日につなげる ほか)
第4章 タイムマネジメントの勘所 (他人の目を気にし過ぎないゴール・目的・目標を設定する ほか)

診断士としても興味深い内容

Q 執筆のコツは？

前述の通りボリュームとして膨大となるため（特に単著の場合）、日頃から自分が興味を持っていることが良いかと思います。企画書を作成する

カスタマーレビュー

★★★★★ (5)
5つ星のうち 4.8

星5つ	4
星4つ	1
星3つ	0
星2つ	0
星1つ	0

あなたのご意見やご感想を教えてください

カスタマーレビューを書く >

すべてのカスタマーレビューを見る (5)

Amazonでも★いっぱい

となったら、その期間はできるだけアイデアを練る時間を取るようにします。また、執筆中も常に目次や作成中原稿を持ち歩き、追加アイデアが出たらその場で追記するようにしていました。

Q 執筆はどこで、どのように？

週ごとのスケジュールを立て、自宅で主に週末にそのノルマを守るように執筆を続けました。スケジュール通りにノルマを達成していくコツも、この本に書いてあります（笑）。

○次回作の予定は？

未定ですが、資格取得のコツや中小企業の購買改革の本などを執筆したいですね。

【55周年記念誌のお詫び&追補版添付】

既に皆様は5年ぶりの発行となりました55周年記念誌を受領のことと思いますがまだ受領していない方は八巻へご連絡願います。

1月10日、T-SMECAニュース送付先へ発送しましたが9名の方が宛先不明で戻りました。その後、メール交信で7名の方には再度送付しましたが、2名の方とまだ連絡がつかない状況です。その他T-SMECAニュース送付先から漏れている方もいらっしゃるかもしれませんので、あらためて本通信でご案内する次第です。

また、「観光経営研究会」と「一言PR集」において脱漏があったこと、関係者にはご迷惑をおかけしましたことをお詫びいたします。

診断士流に原因を探ってみますと、印刷会社からのゲラは2名以上で校正しましたが、①担当者が寄稿者から受領していましたが失念していた、②担当者のパソコン不良により未受領となっていた、ことにより印刷会社へ渡す前の時点でミスが発生していたことが分かりました。今後また同じようなことをする場合、寄稿を複数者が受領する仕組みにする必要を感じました。

このメールで脱漏、正誤表を添付しますのでお受け取り願います。また今後配布される在庫分には追補版もお渡しすることにしております。

まずはお詫びかたがたお知らせいたします。

【あしがき】

先日、仕事で三浦半島に行きました。三浦は大根の出荷量が日本一で、駅を降りるといたるところで大根の直売所があります。名物は、大きいものだと重さ5kgほどもある「三浦大根」。大きくて重いために収穫が大変、洗うのも大変、スーパーに並べるのも大変、買い物して帰るのも大変、と「大変」づくしのため三浦市全体で1%ほどしか作られていないそうです。ただ、農家さんが「でも、おいしいよ！」と言っていた通り、切るとみずみずしく、煮込むと味が抜群に染み込んでいました。城北地区の練馬大根も同じ系統の大根でこちらも相当おいしいそうです。「効率化」を言い訳に何でも楽な方へ流れてしまう自分への戒めになりました。



左が三浦大根 右が一般的な大根

① 皆さまがお持ちの“ネタ”を提供してください

- ・研究会・区会の活動を紹介したい、または、ご自身のセミナーを紹介したい。⇒広報部員が潜入します
- ・ご自身の特技を紹介したい。支部内の方と交流したい。⇒「今月の城北人」のコーナーで紹介します
- ・診断士としてのノウハウを紹介したいなど ⇒特集記事化します。

② 皆さまが知りたいことを教えてください

- ・企業内診断士の活動状況が知りたい。
 - ・独立するには、どうしたらいいかを知りたい。
- ⇒各種 特集を組んで記事を作成します。

③ 読者としての（批判も含め）感想をお聞かせください

- ・批判的な内容もお願いします。今後の改善に活用させていただきます。

④ 本誌編集スタッフ募集中

- ・「隙間時間にちょっと」「アイデアを出すだけ」でも構いません。

問い合わせ先 城北支部広報部： johoku.kouhou@gmail.com まで よろしくお願ひ致します。

JOHOKU SHINDAN 誌 ～第4号 2015年 始動～

2015年2月11日発行

発行者：城北支部長 朝倉久男

編集者：城北支部 広報部